

EWBJ 発足からこれまでを振り返って

理事 佐藤新一郎（飛鳥建設株式会社）

皆さんご存知の通り、EWBJは2004年12月26日に発生したインドネシア・スマトラ沖を震源とする大地震・インド洋大津波の被害を濱田理事長が目にあたりにしたことから、日本からの支援を推進するために設立されました。

当時は日本でも特定非営利活動促進法が制定され、NPO法人が注目されていた時期であり、発起人となった濱田現理事長・小長井前理事長を中心に、松尾前事務局長らとともに、NPO認証に向けた東京都への申請手続き、仮事務所の準備、シンボルマークやホームページ作成など、わからないことだらけでしたが、関係各所を回りながら、なんとか2006年6月にNPO法人としての認証を得ました。その次にみんなで苦労したことは何といっても事業資金の獲得でした（今でも続いています）。他のNPO団体を訪問して事業の進め方を聞きまわったり、外務省へ出向いて助成制度の仕組みを教えてくださいました。

当時を振り返りますと、弊社（飛鳥建設）が『防災のトビシマ』というスローガンを掲げていたこともあり、弊社元社長の富松が濱田先生と意気投合して立ち上げを請け負ってきた（？）ことがEWBJとの関わり合いの始まりでした。弊社執務室の狭い一角に事務局を置き、当時の松尾事務局長には落ち着いた環境の中で仕事をしていただいたことも今では懐かしい思い出です。

その後、事務局は2回転居し、事務局の体制も整備しながら、現在の早稲田馬場下町に落ち着きました。活動は当初のインドネシア、パキスタンで立て続けに発生した大地震やバングラデシュのサイクロン被害に関わる調査、復興支援、防災教育から、現在は東日本大震災対応にも力を入れています。

このような組織の設立から事業展開というものを考えてみますと、第一ステージはまずは『魂』の込められた形を作ること。第二ステージでそれを育むこと。その先は大きく羽ばたくことだと思います。今、EWBJは第二ステージの後半戦に入っています。これからの飛躍に向けて初めの『魂』を核に、みんなの声をエネルギーとして継続的な取り組みを念頭に、活動を一層活性化していくことを目指していくべきだと思います。これまで以上の皆様のご支援並びに活動への積極的な参加をお願いいたします。

このような組織の設立から事業展開というものを考えてみますと、第一ステージはまずは『魂』の込められた形を作ること。第二ステージでそれを育むこと。その先は大きく羽ばたくことだと思います。今、EWBJは第二ステージの後半戦に入っています。これからの飛躍に向けて初めの『魂』を核に、みんなの声をエネルギーとして継続的な取り組みを念頭に、活動を一層活性化していくことを目指していくべきだと思います。これまで以上の皆様のご支援並びに活動への積極的な参加をお願いいたします。



インドネシアでの防災教育の様子（濱田現理事長）



パキスタン地震調査の様子（小長井前理事長）

